

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年8月1日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第568号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌340「救い主イエスと」	p. 540
【交読文】	No.10詩篇第31篇	p. 886
【賛美Ⅱ】	新聖歌248「人生の海の嵐に」	p. 382
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.8「神様の愛の言葉」	
【聖書朗読】	使徒の働き10章23節～33節(新約p. 254上段)	
【礼拝説教】	《コルネリウスとシモン・ペテロ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ●ポイント1. コルネリウスは、なぜペテロにひざまずいたのか？

#### ※イザヤ書57章15節「イスラエルの墮落と偶像礼拝」 (旧約p.1265)

57:15 いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「私は、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人と共に住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。」

#### ※第Ⅰ ペテロ5章5節～6節「使徒ペテロの経験から」 (新約p.471)

5:5 同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

### ●ポイント2. 御霊のシモン・ペテロへの伝言は？

#### ※使徒の働き10章19節～20節「ためらわずに」 (新約p.254)

10:19 ペテロは幻について思い巡らしていたが、御霊が彼に言われた。「見なさい。三人の人があなたがたを訪ねて来ています。

10:20 さあ、下に降りて行き、ためらわずに彼らと一緒に行きなさい。私が彼らを遣わしたのです。」

### ●ポイント3. 「主がペテロに命じられたこと」とは？「神の御前」とは？

#### ※使徒の働き1章8節「主イエスが昇天される直前に」 (新約p.232)

1:8 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」

#### ※第Iヨハネ3章21節～22節「神の御前に出ること」(新改訳第II版)

3:21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、

3:22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっているからです。

#### ※伝道者の書3章11節前半「時についての教えから」(旧約p.1141)

3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。

#### ※マタイの福音書18章19節～20節「主イエスの約束」(新約p.232)

「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられる私の父はそれをかなえて下さいます。二人か三人が私の名において集まっているところには、私もその中にいるのです。」

## ◎先週のメッセージの概要【三人の使者とシモン・ペテロ】

《今見た幻はどういうことだろうか、とシモン・ペテロが一人で思い巡らしていますと、コルネリウスが遣わした三人の使者が、今、到着したのです。

ペテロは、キリスト信仰に変えられましたが、正統的なユダヤ人として生きていました。よってコルネリウスの所に行く前に、主イエスは彼の意識を変える必要があったのです。幻は、異邦人のことを表わしています。

エレミヤは、「異邦人の道を見習うな」とユダヤ人に警告し、また主イエスは、「異邦人の道に行ってははいけません。イスラエルの家の失われた羊たちの所に行きなさい。」と命じられたのです。十二弟子はこの言葉に従っていました。それ故主イエスは、幻においてペテロに命じたのです。「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない」と。

かつて、公生涯において、主イエスはすべての食べ物はきよいと言われました。よって、豚を食べても良くなったのです。後にパウロは、こう勧めています。『ある人は何を食べてもよいと信じていますが、弱い人は野菜しか食べません。食べる人は食べない人を見下してはいけなし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。』と。

パウロは、ローマ人やギリシャ人が主にある兄弟であるならば、一緒に食事を共にし、また律法では禁じられていた「豚」をも食べたのです。

御霊は、ペテロに語ります。「見なさい。三人の人があなたを訪ねて来ています。さあ、下に降りて行き、ためらわずに彼らと一緒に行きなさい。私が彼らを遣わしたのです。」と。彼らはユダヤ教の信者になっていたと思われませんが、しかし、まだ主イエスを信じて救われてはいないのです。

それにも関わらず、「私が彼らを遣わした」と、主は言われるのです。主は、このように未信者をも用いられるのです。また、この後にペテロの説教を通して、彼らは皆救われ、聖霊が注がれます。よって彼らも、生まれる前から神様に選ばれていたのです。シモン・ペテロがコルネリウスに遣わされたように、実は私たちも、主イエスに遣わされた者なのです。》

## ◎お知らせ

※次回第二主日礼拝は、平常通り8月8日(日)午前10時から行ないます。聖書勉強会・祈り会は、8月4日(水)各家庭において行ないます。